

名古屋の古道・街道

池田 誠一

【22】 稲生街道…浄心から稲生へ

1 名古屋城のできる前

名古屋城のできる前の名古屋はどんなところだったのでしょうか。築城の百年近く前、今川氏が今の名古屋城とほぼ同じ所に城を作り、義元の弟とされる氏豊が城主になっています。柳の丸と呼ばれましたが、織田信秀が奪って修築し那古野城としました。付近にはある程度の町並みもあったのではないかとわれています。信長はこの城で生まれたというのが定説です。

金城温故録という本に名古屋城築城前の付近の図面があります。(図1) 図を見ると、古城の前には天王とか若宮などの神社があり、街道に沿って家並みも見られます。

そこに描かれた街道の中に、上から下にカーブしている道があります。上には「此道稲生へ出」とあり、その道を下にとどると熱田につながっていた道だったことが分ります。今回紹介するのは「稲生街道」です。ここに記された道が稲生街道の前身なのかどうかは定かではありませんが、築城前からの古い道というロマンを追って、稲生を通

る街道をたどってみたいと思います。

2 北部からの古い宮参り道？ …稲生街道

(1) 稲生というところ

稲生という所は古い歴史のあるところです。稲生の東側に式内社とされる伊奴神社がありますがその縁起によると673年、天武天皇の時代にここで取れた米を皇室に献上した時に創建されたとあります。稲生という地名もそれから生ま

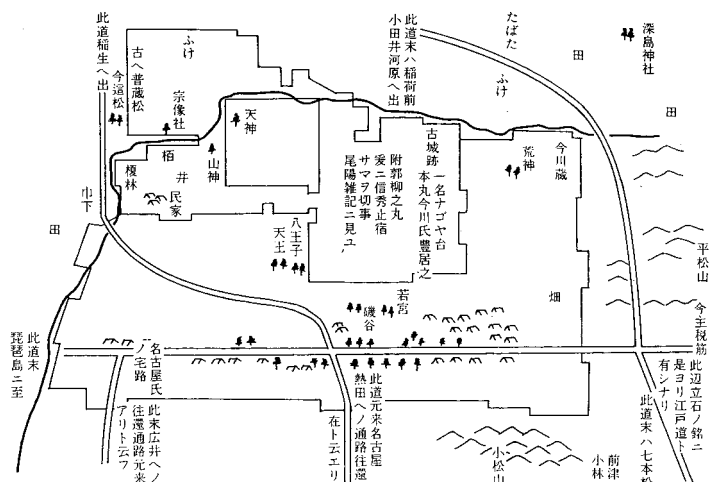


図1 名古屋城築城のころ(金城温故録から)

の向こう、庄内用水に架かる地藏橋を渡って街道が右に曲がるところです。

*

浄心から北に歩くときは大通を避けて1本東の、昔江川が流れていた道が良いと思います。もちろんここにも面影はありませんが、川が流れ田が広がっていたと想像することによって街の見方が変わります。通を信号に迂回して北に進み、大きなスーパーを過ぎた後のバス通りを左折すると名塚の交差点です。

昔、庄内通の西には堀越村、新福寺村、名塚村の3つの村がありました。これらの村は元々庄内川の中州、今の庄内緑地にありました。と



静かな境内の新福寺

ところが、江戸時代の初め、庄内川の堤防工事の関係で川の南に移村させられ現在の位置になりました。名塚の交差点から300mほど西に入った北側にある新福寺も天平時代に行基が創建したという古い寺ですが、この寺もその時に現在地に移されたものです。今はひっそりとした境内に本堂がたっています。

庄内通の地藏橋の西には稲生の合戦の遺跡があります。ひとつはその西北にある白山神社で、



稲生の合戦の砦跡 白山神社



多くの人の塚といわれる庚申塚

ここは信長が戦いに備えて急遽砦を作り佐久間大学に守らせた砦の跡だといえます。もう一つは橋の西南、用水に沿ってある庚申塚で、ここは戦いで亡くなった多くの人が集められて塚が築かれた所だといわれています。

*

さて街道は地藏橋から右に庄内用水の北側を東北に進みます。庄内用水は16世紀の中頃、ここ稲生で取水し名古屋の西南部の灌漑用水としたのが始まりです。その後取水条件の変更などで幾つもの変遷を経ました。現在では守山の川村で取水し、矢田川の下を越し、上飯田を経てここ稲生を通るルートになりました。最盛期には東井筋(江川)、中井筋、西井筋等に分かれ、名古屋の西南部の干拓新田までの多くの田を潤して尾張六大用水の一つとされました。今では農地も減ってその役割も小さくなってしまっています。

100mほどで江川への分流地点に出ます。そこで街道は用水と分かれて北に向います。ここから200m余は古い家も残り、細い道がわずかにカーブしながら続く旧道らしい道です。少し



地藏橋近くの庄内用水(左の道が街道)

わずかに曲がりつつ稲生街道



式内社の伊奴神社

上り坂になると、道は右に水神様を見ながら庄内川の堤防に上っていきます。

*

帰りに、最初に紹介した伊奴神社に寄ってみましょう。街道を戻って水神様の南の細い道を東に入ります。稲生の集落の中を進むと安性寺が、左に1本行くと妙本寺があります、南に少し戻ると庄内用水でそれに沿って東に行くとすぐ伊奴神社です。境内は森になっており、中でも樹齢800年というシイの木は圧巻です。神社の正面の道を南に200mほど行くと鳥居があります。尾張志には、下馬ノ跡は昔清須より熱田方への行く道なれば…云々とありますが、このことでしょうか。西に7、8分で地下鉄の庄内通駅です。



図3 戦国時代の主な城と那古野城

4 信長の青春の道？

改めて戦国の時代に身をおいて稲生街道のあたりを見渡してみましょう。信長の若い時代は尾張の国は南の4郡が清須城、北の4郡が岩倉城のそれぞれ織田氏によって支配されていました。勢力を拡大しつつあった父の信秀は津島の近くの勝幡城から那古野城を奪いました。そして信長は幼少の頃から那古野城の城主として育てられました。敵は今川と考えていたからでしょうか、父は南の古渡城からさらに末森城へと移って行きました。

岩倉城と清須城と古渡城。その真ん中に那古野城がありました。地図に落としてみると、その軸に稲生街道の線が浮かび上がってきます。(図3)

信長が那古野城に住んだ期間は、生まれて直ぐから22歳で清須城を奪って移るまで、20年間あります。ウツケモノといわれた時代、川で泳ぎ、馬を走らせたのはこの稲生街道だったかもしれません。街道を北に行くと小折(江南市)があります。生駒の方といわれる子供を残した恋人もこの道の先の人でした。このように見ると平凡に見える稲生街道は、その後の信長の基礎を作った、光り輝く信長の青春の道だったようにも思えてくるのです。

目をとじて 稲田の道の 時を追い

〈主な参考文献〉

- ①名古屋編「名古屋城史」(1959、名古屋市役所)
- ②山田寂雀、西岡寿一「西区の歴史」(1983、愛知県郷土資料刊行会)